

Z-74-B [第一問] 答案用紙

(財務諸表論)

問 1

(1) 2点

信頼

(2) 完答で2点(順不同)

は	に	へ
---	---	---

(3)Ⓐ 2点

エ

(3)Ⓑ 3点

同様の事実(対象)には同一の会計処理が適用され、異なる事実(対象)には異なる会計処理が適用される
ことにより、会計情報の利用者が、時系列比較や企業間比較にあたって、事実の同質性と異質性を峻別
できるようにしなければならないため、実質優先の考え方が重視される。

問 2

(1) 2点

カ

(2) 2点

オ

(3) 2点

ウ

(4) A : 3点 B : 4点

A. 基準における取得原価主義の説明	「棚卸資産会計基準」における取得原価主義は、将来の収益を生み出すという意味においての有用な原価、すなわち回収可能な原価だけを繰り越そうとする考え方である。
B. 理由	回収可能な原価であると考えられる正味売却価額や再調達原価による低価評価は、収益性の低下した棚卸資産の回収可能性を反映させるように、過大な帳簿価額を減額し、将来に損失を繰り延べないために行われる会計処理であり、取得原価主義の枠内の会計処理であると考えられる。

(5) 2点

売買目的有価証券

(6) 1点

オ

Z-74-B [第二問] 答案用紙

(財務諸表論)

問1

(1) ㉞ : 4点 ㉟ : 4点

㉞	社債発行時に額面金額により資金調達したと捉え、その額面金額 2,000,000 円で債務を計上する。
㉟	これは、社債の発行差額を、社債の発行と同時に前払いした利息と捉える考え方である。
㉞	社債発行時に発行価額により資金調達しており、その発行価額 1,891,000 円で債務を計上する。
㉟	これは、社債の発行差額を、社債償還時に支払うべき利息と捉える考え方である。

(2) ㊸ : 2点 ㊹ : 2点

㊸	社債発行差金は、将来の期間に配分するために繰り延べられた費用、すなわち経過的に貸借対照表に計上される資産としての性格を有すると考えられる。
㊹	社債発行差金は、社債の額面金額から控除すべき評価勘定としての性格を有すると考えられる。

(3) 2点

36,334	円
--------	---

(4) 2点

38,172	円
--------	---

問2

(1) 各1点(合計2点)

a	㉓	b	㉔
---	---	---	---

(2) 4点

のれんの償却により、企業結合の成果たる収益と、その対価の一部を構成する投資消去差額の償却という費用の対応が可能になり、また、投資原価の一部であるのれんを償却することで、投資原価を超えて回収された超過額を企業の利益とみる考え方とも整合する。さらに、企業結合により計上したのれんの非償却による自己創設のれんの実質的な資産計上を防ぐことができるため、のれんの償却が必要となる。

(3) 3点

当該負ののれんは、その発生原因が認識不能な項目やバーゲン・パーチェスであると位置付けられるため、負債として計上されるべき要件を満たしておらず、また、現実には異常かつ発生の可能性が低いことから、異常利益としての処理が妥当であるとの考え方である。

Z-74-B [第三問] 答案用紙

(財務諸表論)

MTE株式会社(第52期)の貸借対照表及び損益計算書

貸借対照表

X6年3月31日現在

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流動資産	(2,122,026)	I 流動負債	(4,607,009)
現金及び預金	(① 1,267,823)	買掛金	(① 969,243)
受取手形	(① 31,320)	[短期借入金]	(1,428,781)
売掛金	(① 308,880)	[1年内返済予定長期借入金]	(① 600,000)
商品	(① 374,433)	[リース債務]	(① 795)
材料	(① 52,420)	未払金	(① 271,714)
貯蔵品	(1,014)	未払費用	(260,962)
前払費用	(85,821)	[未払法人税等]	(① 83,550)
[未収収益]	(① 5,125)	[未払消費税等]	(① 8,252)
貸倒引当金	(△4,810)	前受金	(493,782)
		預り金	(425,930)
II 固定資産	(8,188,656)	賞与引当金	(64,000)
有形固定資産	(7,621,331)	II 固定負債	(4,066,228)
建物	(① 1,599,230)	長期借入金	(3,900,000)
構築物	(62,285)	[リース債務]	(① 4,505)
機械装置	(9,722)	退職給付引当金	(125,900)
車両運搬具	(70,645)	資産除去債務	(① 35,823)
工具器具備品	(① 40,935)	負債合計	(8,673,237)
土地	(5,833,214)	純資産の部	
リース資産	(5,300)	(I 株主資本)	(1,636,206)
		(資本金)	(500,000)
無形固定資産	(22,568)	(資本剰余金)	(70,240)
ソフトウェア	(① 17,168)	[資本準備金]	(70,200)
ソフトウェア仮勘定	(5,400)	[その他資本剰余金]	(① 40)
		(利益剰余金)	(1,069,566)
投資その他の資産	(544,757)	[利益準備金]	(① 54,800)
[投資有価証券]	(① 62,700)	[その他利益剰余金]	(1,014,766)
[関係会社株式]	(① 41,504)	[別途積立金]	(230,000)
[破産更生債権等]	(① 5,560)	[繰越利益剰余金]	(784,766)
[長期前払費用]	(① 18,750)	(自己株式)	(① △3,600)
[長期性預金]	(① 350,000)	(II 評価・換算差額等)	(1,239)
繰延税金資産	(70,803)	(その他有価証券評価差額金)	(① 1,239)
貸倒引当金	(① △4,560)	純資産合計	(1,637,445)
資産合計	(10,310,682)	負債及び純資産合計	(10,310,682)

損益計算書

自X5年4月1日
至X6年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額	額
売上高		(6,398,190)
売上原価		(① 4,553,627)
売上総利益		(1,844,563)
販売費及び一般管理費		(1,060,590)
営業利益		(783,973)
営業外収益		
受取利息及び配当金	(① 10,055)	
雑収入	(1,720)	(11,775)
営業外費用		
支払利息	(① 110,623)	
[為替差損]	(① 338)	
[支払手数料]	(① 10)	
雑損	(① 18,460)	(129,431)
経常利益		(666,317)
特別利益		
[固定資産売却益]	(20,480)	(20,480)
特別損失		
[貸倒引当金繰入額]	(① 2,280)	
[投資有価証券評価損]	(① 27,320)	
[関係会社株式評価損]	(① 34,496)	
[減損損失]	(① 44,777)	(108,873)
税引前当期純利益		(577,924)
[法人税、住民税及び事業税]	(① 166,100)	
[法人税等調整額]	(6,894)	(172,994)
当期純利益		(404,930)

(財務諸表論)

販売費及び一般管理費の明細

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
役 員 報 酬	(197,043)	支 払 保 険 料	(2,376)
給 与 手 当	370,567	修 繕 費	(5,222)
賞 与	(79,706)	租 税 公 課	(1) 19,167)
退 職 給 付 費 用	(1) 19,145)	減 価 償 却 費	(1) 192,267)
法 定 福 利 費	(89,838)	ソ フ ト ウ ェ ア 償 却 費	(8,570)
賞 与 引 当 金 繰 入 額	(1) 44,800)	利 息 費 用	(325)
販 売 促 進 費	(1) 21,290)	貸 倒 引 当 金 繰 入 額	(1) 1,350)
賃 借 料	(4,263)	雑 費	(905)
消 耗 品 費	(3,756)	合 計	(1,060,590)

M T E 株 式 会 社 (第 52 期) の 個 別 注 記 表 (一 部)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

繰延税金資産

貸倒引当金	(2,811)
商品評価損	(1) 117)
資産除去債務	(10,746)
土地の減損損失	(1) 13,433)
関係会社株式評価損	(10,348)
賞与引当金	(19,200)
退職給付引当金	(1) 37,770)
未払事業税	(1) 7,770)
繰延税金資産小計	(102,195)
評価性引当額	(1) △23,781)
繰延税金資産合計	(78,414)
繰延税金負債	
資産除去債務に対応する除去費用	(1) △7,080)
その他有価証券評価差額金	(△531)
繰延税金負債合計	(△7,611)
繰延税金資産の純額	(70,803)

財務諸表論【総評】

〔はじめに〕

理論問題は、例年に比べて難度が高く、基本項目を確実に得点する必要があった。選択問題と論述問題を中心とした問題形式であったが、選択問題で点を確保し、かつ、論述問題でどれだけ部分点を稼げたかがポイントとなろう。

計算問題に関しては、非常に分量が多く、さらに判断に迷いが生じる部分も一部あったため、多くの受験生が苦勞したと思われる。比較的平易な論点から取り掛かり、しっかり時間を掛けて得点を伸ばす必要があった。

全体としては、理論・計算とも個々の難易度を判断し、取捨選択を見極めながら解答できたか否かが、例年にも増して重要であったと思われる。

〔第一問〕

「概念フレームワーク」、「棚卸資産の評価」からの出題であった。記号選択問題を中心に基本問題を確実に得点し、論述問題に関しては部分点を確保したい。

問1：(1)は正解したい。(2)及び(3)④は正解できると有利になる。

(3)③は難度の高い問題であるが、部分点を確保したい。

問2：(1)～(3)は正解したい。

(4)については、完答は難しいが主要な部分について解答し、部分点を確保したい。

(5)は正解したい。(6)は正解できると有利になる。

〔第二問〕

「社債発行差金」、「のれん」に関する問題であり、問1「社債発行差金」は非常に難度が高く、解答することが困難であった。問2「のれん」で基礎的な部分を確実に正答するとともに、論述問題に関しては部分点を確保したい。

問1：(1)～(2)については部分点が拾えれば有利になるが、できなくても支障はないであろう。

(3)～(4)はできなくても支障はないであろう。

問2：(1)は正解したい。

(2)～(3)については完答は難しいが、結論やキーワードとなる部分を記述し、部分点を確保したい。

〔第三問〕

会社法及び会社計算規則に準拠した一般的な構造の財務諸表作成問題であるが、メンテナンスサービスを行っている点が特徴的であった。

全体的にボリュームが多く、問題の取捨選択を行い、有価証券、リース、減損、ソフトウェア、賞与引当金、借入金、諸税金といった平易な部分を中心に確実に得点する必要がある。

〔合格ライン〕

LECの想定する配点基準に基づいて合格ラインを予想すれば次のとおりである。

第一問 13点～15点、第二問 7点～9点、第三問 27点～30点 合計点 49点～52点

配点基準が変われば合格ラインも上下するので、おおよその目安として合格ラインを見るようにしていただきたい。